

平成27年度 新・北海道病院事業改革プラン点検・評価書

目 次

第1章 全体評価	1
第2章 経営改善に係る評価	3
第3章 収支計画及び数値目標の達成状況に係る評価	11

第1章 全体評価

1 自己点検・評価

平成27年度は、新たな取組として、江差、北見、羽幌の3病院に、医療連携専門員（特別職非常勤職員）を配置し、他の医療機関や福祉施設等関係機関と連携した入退院支援、地域連携機能の強化を通じ患者確保に努めたほか、医師・看護師・薬剤師等の医療従事者確保対策についても新規事業の実施や既存事業の拡充を行うなど、収益確保対策の強化に取り組んできた。

医業収益は、概ね前年度と同程度の収益となったものの、目標比89.1%であり、その内訳では、入院収益が目標比85.8%、外来収益が95.8%となっている。医業外収益は、苫小牧病院の廃止関連収益で増額となったことから、病院事業全体の収益（見込）としては、約113億7,000万円、目標比90.2%となった。一方、費用については、収益同様、苫小牧病院の廃止関連経費の特別損失が生じたものの、医薬材料費や経費の節減等に努め、総費用は前年並みの約170億5,000万円で、目標比93.1%、医業費用及び医業外費用ともに目標比92.4%の執行率であった。

この結果、収支差は▲56億8,100万円となり、前年度比約7億5,000万円改善し、年間目標以下に縮減した。

病院別の医業収益の状況については、

- ① 精神科2病院のうち、緑ヶ丘病院においては、精神科救急入院料（スーパー救急）病棟が高い稼働率を維持できたことで、収益単価が増加したことなどにより、前年度実績及び年間目標を上回った。
また、向陽ヶ丘病院においては、新病院移転に向けた患者調整や夏季期間の退院患者数の増加などにより、入院・外来ともに患者数が減少したことから、年間目標を下回った。
- ② 循環器・呼吸器疾患の高度・専門病院である北見病院については、入院・外来とも前年度を上回る患者数が確保できたことから、前年度と比較して増収となり、概ね年間目標どおりの収益額を確保した。
- ③ 地域センター病院のうち、江差病院においては、手術件数の減少などに伴い上半期入院患者の減少が影響し、患者数が前年度より大きく減少したこと、また、羽幌病院においては、レスパイト入院の利用拡大、午後診療や訪問診療などの実施に努めたが、患者数が前年度より減少したことから、両病院とも前年度実績、年間目標を下回った。
- ④ 小児の高度・専門医療機関である子ども総合医療・療育センターについては、紹介医療機関の拡大にも取り組み、外来は、前年度を上回る患者数を確保し、年間目標を上回った一方、入院は、心臓血管外科など手術件数の増、入院診療パスの導入・推進により収益単価が増えたものの、平均在院日数の減などにより1日平均患者数が減少したことから、概ね前年度実績程度に止まり、年間目標を下回った。
また、収支差については、羽幌、緑ヶ丘、向陽ヶ丘、北見の4病院が年間目標以下に縮減した。子ども総合医療・療育センターでは、前年度より収支差を縮減させることができたものの、年間目標までには至っていない。

平成28年度における経営改善に向けては、江差病院で整形外科医を増員、子ども総合医療・療育センターで産科医を1名確保するなど、医師等の欠員解消に取り組むとともに、診療報酬の新たな加算措置取得に向けて取り組んできた。

2 上半期評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成27年度の実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ 病院事業全体として、入院・外来収益がともに前年度をやや下回っていることから、医業収益における年間目標の達成に向け、引き続き取組の充実を図ること。 ○ 27年度から配置した医療連携専門員の活用により、周辺自治体に協力を求めながら、退院支援の強化や患者確保に取り組み、収益の確保を図ること。 ○ 可能な限りの経営健全化を図るため、他の自治体病院の状況把握や意見交換を積極的に行い、経営改善に有効な取組事例などの情報を収集するなど、連携強化に努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元広報誌や住民向けセミナーなどを通じた病院のPRに積極的に取り組むとともに、周辺市町村で開催される介護・医療に関する連携会議などに医療連携専門員等の道立病院職員が参加するなど、患者確保に努めた。 ○ 全国自治体病院協議会事務長部会研修会への出席や道内公立病院事務長との情報交換を実施し、地域医療を担う自治体病院などの経営状況や経営改善に向けた取組事例などの情報収集に努めた。

3 委員会点検・評価

<ul style="list-style-type: none"> ○ ここ数年、道内医療機関の患者数は減少傾向にあるが、道立病院でも患者数の減少が続いている。こうした中、平成27年度は、患者数の増加した北見病院及び収益単価が増加した緑ヶ丘病院で前年度を上回る収益を確保できたこと、各病院が費用の縮減に努め、収支差の縮減が図られたことは一定の評価。しかしながら、収益に関しては目標を達成できていない状況にあり、経営改善を着実に進めていくためには、収益確保、特に医業収益を確保することが必要。このため、医師確保に加え、収益単価の増加や診療報酬制度の加算措置の積極的な取得に努めるなど、取組の充実を図ること。 ○ 各病院の診療体制の維持はもちろん、収益確保の根幹となる医師、看護師等医療従事者については、依然として必要な職員数を十分に確保できていない。各病院の機能面・経営面で重要な診療科の医師確保に重点的に取り組むとともに、看護職員について、業務範囲の適正化、医療クラークや医療連携専門員の積極的な活用など負担軽減策を検討すること。 ○ 近年、医療従事者の都市部への集中傾向が顕著になり、道立病院の立地条件等を考慮した場合、コメディカルの人材確保は、益々困難になることが想定される。道立病院が慢性的な人材不足から脱却するためには、人材確保に関し、抜本的な解決策を講じる必要があり、平成29年度の地方公営企業法の全部適用移行に向け、医療従事者の処遇改善について、具体的な手立てを検討すること。 ○ 道内の人口減少が加速し、地域の医療需要も変化していく中で、患者数を確保・維持していくためには、道立病院が有する機能を十分に発揮し、地域住民に利用される病院でなければならない。第二次医療圏域単位で策定される地域医療構想との整合性に配慮しながら、必要な病床機能の整備を進め、周辺圏域の医療機関との連携、役割・機能分担を一層明確にしていくこと。 特に、移転改築した病院については、医療機能や療養環境の充実度など新病院の魅力を積極的にPRし、新規患者の確保など利用拡大に努めること。

第2章 経営改善に係る評価

1 収益の確保

(1) 診療体制の整備

①上半期評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成27年度の実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ 収益確保に向けて、欠員の解消は優先に取り組むべき課題であり、江差、羽幌病院の整形外科、子ども総合医療・療育センターの産科など基幹診療科の医師については、来年度を見据えた人材確保に早い段階から取り組むこと。 ○ 看護師や薬剤師の欠員解消には、従事者確保と同時に在職者の離職防止が重要であり、そのためには働きやすい職場環境を提供していく必要があることから、勤務環境の改善などに有効な手段を引き続き検討していくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院の基幹診療科の医師確保に向けて、各医育大学等への要請を実施。(江差病院整形外科医1名増員、コドモックル産科医を新たに1名確保) ○ 新人看護職員が早期に職場に順応していけるよう定期的に面談を実施。看護職員のワークライフバランスの推進に向けて年休取得の増に取り組んだ。(道立病院看護職員年休取得日数(年間1人平均) H26:7.5日、H27:8.4日)

②個別事項概要

プラン	自己点検・評価
<p>ア 医師・看護師・薬剤師等医療従事者等の確保</p> <p>イ 幅広い診療を行うことができる総合内科医の確保</p> <p>ウ 研修医の採用拡大</p>	<p><人材確保の取組(医師・看護師・薬剤師等医療従事者確保の共通の取組)></p> <ul style="list-style-type: none"> * インターネット(HP, Facebook, Twitter, メルマガ等)による医師・看護師・薬剤師等募集活動 * 移住促進フェア、民間企業主催の専門研修説明会、北海道物産展等を活用した道外での医師・看護師・薬剤師募集活動 * 民間人材紹介事業者を活用した医師・看護師・薬剤師募集 ㊦医師会・看護協会・薬剤師等関係団体との連携や新聞・情報誌等での募集 <p><医師確保対策></p> <ul style="list-style-type: none"> * 道内3医育大学への医師派遣要請(17名確保) * 自治医科大学卒業医師の確保(3名確保) * 寄付講座の設置による医師派遣(3名確保) * 後期研修医の確保(1名確保) * 臨床研修施設としてのPRによる臨床研修医の確保(2名) * ホームページ等での公募による医師募集活動(1名確保) ㊦道内3医育大学以外の医育大学等への要請(国立成育医療研究センター、順天堂大、慈恵医大、日本医科大) ㊧自治医科大学卒業医師の義務年限終了後の勤務継続要請による医師確保(1名確保) ㊨医師本人と家族の道立病院現地見学・住生活環境視察の実施(2名応募) <p>[その他: 処遇改善、勤務環境改善など]</p> <ul style="list-style-type: none"> * 医学研究調査手当の延長継続 [H26~H28] ㊩管理職特別勤務手当の支給対象拡充 [H27~] ㊪医師事務作業補助者の拡充

< 医師 >

(H28.3月末現在)

	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモックル	計
定数	18	8	14	8	6	43	97
現員数	13	7	8	9	5	38	80
差引	▲ 5	▲ 1	▲ 6	1	▲ 1	▲ 5	▲ 17

< 看護師確保対策 >

- * 看護師養成校訪問、合同就職説明会での職員募集活動による看護師確保（43名確保）
- * 民間人材紹介事業者の活用（1名確保）や民間の看護師就職情報サイトを活用した看護師募集
- * 道立病院のインターンシップの実施（高等看護学院との連携）
- ㊦ 道外看護師養成校へのダイレクトメール発送
- ㊦ 採用試験実施回数・会場の拡大（年4回→毎月、東京試験会場増）
- [その他処遇改善、勤務環境改善など]
- 新入看護師職員のキャリアサポート 新夜勤専従の実施

< 看護師 >

(H28.3月末現在)

	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモックル	計
定数	115	67	46	79	65	202	574
現員数	85	53	41	76	59	197	511
差引	▲ 30	▲ 14	▲ 5	▲ 3	▲ 6	▲ 5	▲ 63

< 薬剤師・その他の医療技術者確保対策 >

- * 道内薬科大学や養成校、職能団体への働きかけ * 新聞・情報誌等での募集 * 採用試験の弾力的な実施（通年募集）
- 新薬剤師インターンシップの実施（江差） 新民間の薬剤師紹介事業者活用による薬剤師募集
- ㊦ 採用試験実施回数・会場の拡大（年3回→毎月、10月～道内試験会場増）

< 薬剤師 >

(H28.3月末現在)

	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモックル	計
定数	3	3	2	3	2	4	17
現員数	2	1	2	3	1	4	13
差引	▲ 1	▲ 2	0	0	▲ 1	0	▲ 4

■ 委員会点検・評価

- 各病院に必要な診療機能の確保に向け、各医育大学に対する医師派遣の継続要請については、時期を逸することなく、粘り強く取り組むこと。また、看護師・薬剤師など他職種についても、病院現場での体験機会の充実を図るなど創意工夫した募集活動の強化に取り組むこと。
- 道外における医療従事者の募集活動については、これまでの取組成果を検証し、民間医療機関の取組について情報収集・分析するなど、より一層効果が期待できる手法を再検討すること。

プラン	自己点検・評価																																												
エ 高度な医療機器等の整備	<p>○高度な医療機器の整備 平成27年度に整備した主な医療機器 *羽幌：MRI（更新）*コドモ：脳波計（更新）*向陽ヶ丘：CT（更新） *北見：気管支内視鏡システム・人工透析装置（更新）</p>																																												
オ 病床の効率的な運用	<p>○病床の効率的な運用 *緑ヶ丘：許可病床の変更 精神 187床→168床（H27.3～） 運用病床の変更 精神 168床→137床（H27.3～）</p>																																												
カ 医療安全対策の徹底	<p>○医療安全委員会の開催等 各病院に設置している医療安全委員会にインシデント・アクシデントの集計と要因分析や職員の安全管理に対する啓発、教育、指導等を行うリスクマネジメント部会を設置し、実効性のある取組の推進により医療の質の向上を図るとともに、事故防止体制の確立に努めている。</p>																																												
キ クリニカルパスの導入の検討	<p>○クリニカルパスの導入 コドモックルにおいて新たなパスの導入を進め、効率的な診療を行うことよって収益確保を図った。</p>																																												
<p>【パスの数】 (種)</p> <table border="1" data-bbox="616 775 1111 1024"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江差</td> <td>33</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>北見</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>羽幌</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>緑ヶ丘</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>向陽ヶ丘</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>コドモ</td> <td>25</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> <p>【パスの適用件数・割合】</p> <table border="1" data-bbox="1153 775 1639 1024"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th>H27</th> <th>H27</th> </tr> <tr> <th>適用件数 (件)</th> <th>適用割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江差</td> <td>227</td> <td>9.9</td> </tr> <tr> <td>北見</td> <td>25</td> <td>2.6</td> </tr> <tr> <td>羽幌</td> <td>112</td> <td>12.0</td> </tr> <tr> <td>緑ヶ丘</td> <td>431</td> <td>23.3</td> </tr> <tr> <td>向陽ヶ丘</td> <td>827</td> <td>60.9</td> </tr> <tr> <td>コドモ</td> <td>1,176</td> <td>21.1</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	H26	H27	江差	33	34	北見	1	1	羽幌	4	4	緑ヶ丘	3	3	向陽ヶ丘	2	2	コドモ	25	33	病院名	H27	H27	適用件数 (件)	適用割合 (%)	江差	227	9.9	北見	25	2.6	羽幌	112	12.0	緑ヶ丘	431	23.3	向陽ヶ丘	827	60.9	コドモ	1,176	21.1
病院名	H26	H27																																											
江差	33	34																																											
北見	1	1																																											
羽幌	4	4																																											
緑ヶ丘	3	3																																											
向陽ヶ丘	2	2																																											
コドモ	25	33																																											
病院名	H27	H27																																											
	適用件数 (件)	適用割合 (%)																																											
江差	227	9.9																																											
北見	25	2.6																																											
羽幌	112	12.0																																											
緑ヶ丘	431	23.3																																											
向陽ヶ丘	827	60.9																																											
コドモ	1,176	21.1																																											

■委員会点検・評価

- 高度医療機器を整備する際には、全国自治体病院協議会など関係団体などから積極的に情報を入手し、利用実績や各病院が提供する医療の内容を考慮しながら選定すべき機種や保守点検等も含めた市場価格を十分調査すること。
- 高度医療機器の効率的な運用の観点から、周辺医療機関との共同利用等について検討すること。
- 重大な医療事故は発生していないが、引き続き医療事故の発生防止に向けて、これまでの事件事例やヒヤリ・ハット事例の分析結果を生かした教育・指導を行うなど、取組内容の充実を図ること。

(2) 患者サービス・療養環境の向上等

① 上半期評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成27年度の取組実績
○ 患者満足度調査については、結果を活用した療養環境の改善が図られているかを検証し、患者サービスの向上に確実に結びつけること。	○ 患者満足度調査を全病院において実施し、その結果を活用して療養環境の改善状況を検証したうえで、患者サービスの確実な向上に努めた。

② 個別事項概要

プラン	自己点検・評価															
<p>ア 患者満足度調査の実施</p> <p>イ 患者のニーズに応じた満足されるサービスの提供</p> <p>ウ 必要な施設・設備整備の検討</p> <p>エ 安全かつ快適で利便性の高い療養環境づくり</p>	<p>○患者調査、サービス向上</p> <p>各病院において、外来や病棟ごとに「患者満足度調査」を実施し、その結果を前年度の結果と比較検証するとともに院内で共有し、満足度が低いと判断される項目について、改善可能なものから、療養環境を見直すなど、さらなる患者サービスの向上に努めた。</p> <p>〔主な改善取組項目：診療待ち時間短縮、退院支援充実、医師・看護師の接遇対応向上、乳児対応設備の充実、食堂メニュー改善等。〕</p> <p>○施設整備</p> <p>北見病院及び向陽ヶ丘病院については、各々予定どおり改築工事を終了し、新病院を開院。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th colspan="3">実施状況</th> </tr> <tr> <th>着手</th> <th>完成</th> <th>開院日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>向陽ヶ丘</td> <td>H26.12</td> <td>H28.3</td> <td>H28.6.20</td> </tr> <tr> <td>北見</td> <td>H27.3</td> <td>H28.6</td> <td>H28.8.1</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	実施状況			着手	完成	開院日	向陽ヶ丘	H26.12	H28.3	H28.6.20	北見	H27.3	H28.6	H28.8.1
病院名	実施状況															
	着手	完成	開院日													
向陽ヶ丘	H26.12	H28.3	H28.6.20													
北見	H27.3	H28.6	H28.8.1													

(3) 広報の充実

① 個別事項概要

プラン	自己点検・評価
ホームページや広報紙等による積極的な広報活動	<p>○HP, Facebook, Twitter, メルマガ等を活用し道立病院のPRの実施</p> <p>㊦道立病院室ホームページ内の医療従事者確保のページをリニューアル</p> <p>○各病院の季刊誌等の発行</p> <p>○人材確保のための道外イベント（移住促進フェアや北海道物産展）を利用した道立病院のPR活動の実施</p> <p>㊦道立病院職員（医師・看護師・薬剤師）募集用パンフ作成・配付〔道内コンビニ（サンクス190店舗）への設置など〕</p>

(4) 一般検診、人間ドック等の拡大

① 上半期評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成27年度の取組実績
○ 検診・人間ドックについては、患者の掘り起こしにつながる有効な取組であることから、拡大に向けた取組を継続すること。	○ 江差病院・北見病院において、検診件数拡大。 羽幌病院において、平成27年度から人間ドックを開始した。

② 個別事項概要

プラン	自己点検・評価																																				
ア 検診や人間ドックの拡大 イ 地域における保健、予防活動への支援	<p>○検診・人間ドックの拡大</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">【検診実績】</th> <th colspan="2">(単位：件)</th> </tr> <tr> <th>病院名</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江差</td> <td>1,066</td> <td>1,089</td> <td></td> </tr> <tr> <td>北見</td> <td>164</td> <td>182</td> <td></td> </tr> <tr> <td>羽幌</td> <td>293</td> <td>243</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">【人間ドック実績】</th> <th colspan="2">(単位：件)</th> </tr> <tr> <th>病院名</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江差</td> <td>51</td> <td>37</td> <td></td> </tr> <tr> <td>羽幌</td> <td>—</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○地域活動の実施 羽幌：へき地への巡回診療を実施（羽幌町2地区、苫前町2地区） 向陽ヶ丘：認知症疾患医療センターによる地域住民への啓発</p> <p>○公開講座等の実施 羽幌：出前講座3回、緑ヶ丘：地域公開講座9回、コドモ：地域連携セミナー22回</p>	【検診実績】		(単位：件)		病院名	H26	H27		江差	1,066	1,089		北見	164	182		羽幌	293	243		【人間ドック実績】		(単位：件)		病院名	H26	H27		江差	51	37		羽幌	—	1	
【検診実績】		(単位：件)																																			
病院名	H26	H27																																			
江差	1,066	1,089																																			
北見	164	182																																			
羽幌	293	243																																			
【人間ドック実績】		(単位：件)																																			
病院名	H26	H27																																			
江差	51	37																																			
羽幌	—	1																																			

(5) 未収金の発生防止等

①個別事項概要

プラン	自己点検・評価																
未収金の発生防止や早期回収	<p>○ 担当者研修会を開催し、債権回収専門家（弁護士）の講義資料を活用するなどして、滞納者への対応手法の技術向上を図った。</p> <p>○ 未収金の増加を防ぐ観点から、現年度及び過年度に発生した個人医業未収金について、窓口担当者と連携し、滞納者来院時の面談により生活状況の把握に努め、状況に適した対応を行った。</p> <p>○ 出張徴収、電話催告の実施などによる早期回収や、休日・夜間診療の際の医療費預り金制度を活用した滞納の発生防止に努めた。</p> <p>○ 「新たな未収金を発生させない」取組を継続するとともに、上期・下期毎に診療費未納整理強化月間を実施し、回収強化に努めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">○過年度分個人医業未収金 年度末残高の推移 (単位：円)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>33,525,958</td> <td>29,048,535</td> <td>27,838,640</td> </tr> <tr> <td>対前年度増減</td> <td>▲13.5%</td> <td>▲13.4%</td> <td>▲4.2%</td> </tr> </tbody> </table>	○過年度分個人医業未収金 年度末残高の推移 (単位：円)					H25	H26	H27	金額	33,525,958	29,048,535	27,838,640	対前年度増減	▲13.5%	▲13.4%	▲4.2%
○過年度分個人医業未収金 年度末残高の推移 (単位：円)																	
	H25	H26	H27														
金額	33,525,958	29,048,535	27,838,640														
対前年度増減	▲13.5%	▲13.4%	▲4.2%														

(6) 診療報酬請求への的確な対応

① 上半期評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成27年度の取組実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ 診療報酬の請求状況について点検を実施するなど、請求漏れの防止、加算取得の充実を図ること。 ○ 平成28年の診療報酬改定に向けて情報収集に努め、改定内容への対応に遅れが生じないよう取り組むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 診療報酬請求については、委託している医事業務の精度を高めるため、他の民間業者による点検を実施した。 ○ 各団体や民間が主催する診療報酬改定説明会に出席し、情報収集を行うとともに、病院職員の研修会で届出の遅れが生じないよう周知を図った。

② 個別事項概要

プラン	自己点検・評価																	
ア 新たな施設基準の積極的な取得 イ 診療行為の記録漏れ等の発生防止	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成27年度において、以下の施設基準等を新たに届出。 <p style="text-align: center;">【各病院の施設基準（新規分）】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>名 称</th> <th>金額（千円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北見</td> <td>重症者等療養環境特別加算（1床→2床）</td> <td>1,140</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">羽幌</td> <td>検体検査管理加算（Ⅰ）→（Ⅱ）</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>急性期看護補助体制加算 50:1</td> <td>597</td> </tr> <tr> <td>緑ヶ丘</td> <td>感染防止対策加算2</td> <td>295</td> </tr> <tr> <td>向陽ヶ丘</td> <td>検体検査管理加算（Ⅰ）</td> <td>111</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	名 称	金額（千円）	北見	重症者等療養環境特別加算（1床→2床）	1,140	羽幌	検体検査管理加算（Ⅰ）→（Ⅱ）	25	急性期看護補助体制加算 50:1	597	緑ヶ丘	感染防止対策加算2	295	向陽ヶ丘	検体検査管理加算（Ⅰ）	111
病院名	名 称	金額（千円）																
北見	重症者等療養環境特別加算（1床→2床）	1,140																
羽幌	検体検査管理加算（Ⅰ）→（Ⅱ）	25																
	急性期看護補助体制加算 50:1	597																
緑ヶ丘	感染防止対策加算2	295																
向陽ヶ丘	検体検査管理加算（Ⅰ）	111																

(7) 適正な受益者負担

① 個別事項概要

プラン	自己点検・評価
○ 使用料、手数料の原価に照らした適正な見直し	○ 道の手数料条例の改正に併せて、使用料及び手数料について、次のとおり原価を踏まえた見直しを行った。（分べん介助料、新生児保育料、死体検案料、子宮内避妊器具の挿入及び除去代、特別長期入院料）

■委員会点検・評価

<ul style="list-style-type: none"> ○ 療養環境の更なる向上に向けて、患者満足度調査の結果に基づく処理状況を点検し、改善点が維持されているか検証すること。 ○ 診療報酬の請求漏れの防止を図るため、委託している医事業務の精度調査を定期的実施すること。 ○ 人工透析を実施している病院については、患者の利便性向上を確保する方策について検討すること。
--

2 費用の縮減

① 上半期評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成27年度の取組実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ 費用の縮減については、継続した取組の成果が見られているが、上半期の厳しい経営状況を踏まえ、引き続き、患者の療養環境に配慮しながら、費用の縮減に努めること。 ○ 特に、高額医療機器等の購入やシステム整備については、全国自治体病院協議会等との情報交換や、実勢価格の調査、本庁での購入契約など、廉価購入に向けた効果的な取組を検討すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 療養環境に配慮しながら、各病院で光熱水費の節減に努め、費用の削減を図った。 ○ 高額医療機器等の購入やシステム整備については、他の医療機関の導入事例における割引率などについて、全国自治体病院協議会を通じて情報収集を実施した。

② 個別事項概要

プラン	自己点検・評価
(1) 病床規模の適正化 ア 病床利用率等の状況を見極めた病床規模の適正化 イ 適正化後の施設の有効活用の検討	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一昨年度末で廃止した苫小牧病院の病院庁舎等については、地元苫小牧市へ譲渡した。
(2) 職員の適正配置 業務量等を勘案した職員の適正配置	<ul style="list-style-type: none"> ○ ⑧臨床工学技士定数1増〔北見〕(H27年度～) ○ ⑧医療連携専門員(MSW)【特別職非常勤職員】の配置〔江差・北見・羽幌〕(H27年度～) ○ ⑧北見病院の看護師採用枠の拡大
(3) 医薬材料費の節減 ア 購入の一元化等による廉価購入の実施 イ 後発医薬品の使用拡大 ウ 遊休品や死蔵品の発生の防止等の適正な在庫管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の自治体病院の医薬品の購入単価等の情報を活用することにより、廉価購入に努めた。 ○ 後発医薬品採用率は、品目ベースで上期26.1%に対して下期は27.2%に採用率を拡大した。
(4) 業務委託の推進 契約内容の積極的な見直しによる経費節減	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医事業務、医師事務作業補助、院内保育所業務、電気工作物保安業務に関して、本庁一括契約を行うこととて、費用面のスケールメリットを確保し、費用を縮減した。
(5) 固定資産の用途変更等 未利用の資産の用途変更、廃止、処分等の検討	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緑ヶ丘病院の農場及びグラウンドについては、庁内の利用希望調査を実施した。活用方法等を継続検討となった。
(6) 管理経費等の節減 光熱水費等の節約や事務用品の廉価購入等による節減	<ul style="list-style-type: none"> ○ 療養環境に十分に配慮しながら、各病院で光熱水費の節減に努め、費用削減を図った。 ○ 燃料価格の市況に留意し、価格交渉を強化した。 ○ 修繕費など営繕管理経費については、定期点検等を行うなどして、長寿命化に努め経費を節減した。

■委員会点検・評価

- 費用の縮減については、各病院で一定の成果が見られる。引き続き、適正な医薬材料の在庫管理など取組の充実に努めるとともに、取組実績をできるだけ数値化し、職員にフィードバックすることで、経営改善に向けた意識を定着させること。
- 医療クラークや医療連携専門員の導入により、入退院支援や事務負担の軽減などに、どの程度効果が得られているのかを十分に検証すること。

3 職員の意識の向上

① 上半期評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成27年度の取組実績
○ 職員の満足度調査や経営改善に関する意識調査などの結果等を活用しながら、働きやすい職場環境の整備や、職員の経営意識の高場に引き続き努めること。	○ 各病院で経営推進会議を毎月開催しながら、経営情報の共有や経営参画意識の向上に努めたほか、本庁職員が病院に赴き、各課題の現場視察や意見交換を通して共通認識を図り、経営上の課題解消に努めた。 また、職員満足度調査や経営改善に関するアンケートを参考に職場環境の整備に努めた。

② 個別事項概要

プラン	自己点検・評価																																														
(1) 職員の満足度の向上 職員満足度調査の実施等による働きやすい職場環境の整備	<p>○ 道立病院に勤務する職員を対象に行った満足度調査の結果、満足度が低い傾向にあった項目について改善策を検討し、各病院の職場環境の改善を図ることにより、働きやすい職場の整備に努めた。</p> <p>○道立病院看護職員の離職率 (単位: %)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">道立病院</td> <td>離職率</td> <td>9.4</td> <td>9.0</td> <td>8.8</td> <td>8.8</td> <td>7.0</td> </tr> <tr> <td>新卒離職率</td> <td>27.3</td> <td>11.8</td> <td>11.8</td> <td>10.1</td> <td>5.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">北海道</td> <td>離職率</td> <td>11.6</td> <td>11.1</td> <td>12.2</td> <td>11.6</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>新卒離職率</td> <td>6.8</td> <td>5.7</td> <td>5.0</td> <td>5.0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">全国</td> <td>離職率</td> <td>10.9</td> <td>11.0</td> <td>11.0</td> <td>10.8</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>新卒離職率</td> <td>7.5</td> <td>7.9</td> <td>7.5</td> <td>7.5</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>			H23	H24	H25	H26	H27	道立病院	離職率	9.4	9.0	8.8	8.8	7.0	新卒離職率	27.3	11.8	11.8	10.1	5.6	北海道	離職率	11.6	11.1	12.2	11.6	—	新卒離職率	6.8	5.7	5.0	5.0	—	全国	離職率	10.9	11.0	11.0	10.8	—	新卒離職率	7.5	7.9	7.5	7.5	—
		H23	H24	H25	H26	H27																																									
道立病院	離職率	9.4	9.0	8.8	8.8	7.0																																									
	新卒離職率	27.3	11.8	11.8	10.1	5.6																																									
北海道	離職率	11.6	11.1	12.2	11.6	—																																									
	新卒離職率	6.8	5.7	5.0	5.0	—																																									
全国	離職率	10.9	11.0	11.0	10.8	—																																									
	新卒離職率	7.5	7.9	7.5	7.5	—																																									
(2) 経営参画意識の向上 病院理念や経営情報の共有による職員全員の経営参画意識の向上	<p>○ 各病院で経営推進会議を毎月開催。経営情報を職員で共有しながら、収益確保と費用縮減の取組を進めた。</p> <p>○ 経営推進会議などの場への本庁職員の出席、各病院の課題等に応じた、病院幹部や各診療科の医師との意見交換、収益確保に向けた取組の協議を通じ、経営状況等に関して共通認識を図り、経営上の課題解消に努めた。</p>																																														
(3) 改善意識の向上 職員からの業務改善提案の奨励等による一人一人の改善意識の向上	<p>○ 本庁と各病院との一体となった経営改善を進めるため、各病院ごとにプランの達成に向けた取組方針を十分に協議のうえ策定し、各々具体的な取組を進めた。</p>																																														

■委員会点検・評価

○ 経営改善を進めるには、本庁と病院現場間の意思疎通や病院現場職員の理解と協力が不可欠である。各病院の課題を常に把握・分析し、迅速に解決すること。

第3章 収支計画及び数値目標の達成状況に係る評価

(1) 病院事業共通

① 上半期委員会評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成27年度の取組実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ 厚労省が示した医療需要の将来予測などからは、回復期病床の整備が必要であり、特に江差、羽幌病院は地域の基幹病院として、こうした機能を有するべきであることから、地域包括ケア病床の整備について検討を進めること。 ○ 特に江差・羽幌病院における患者数の減少が大きいことから、周辺の医療機関や公立病院等と積極的に情報交換を行い、患者の確保に努めること。 ○ 下半期は、上半期と比較すると一般診療科は患者数が増える傾向にあるため、より一層患者確保に努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 江差・羽幌病院においては、地域包括ケア病床を新たに整備するため、データ提出加算届出等の準備に着手した。 ○ 江差病院に関しては、函館市内の医療機関を訪問し、情報交換を行い、患者の確保に努めた。羽幌病院においては、遠別国保病院内に診療体制・病院情報を毎月掲示し、また、地域連携室が中心となり、関係施設を訪問し医療・介護の情報交換や診療機能等の周知を図り、患者確保に努めた。 ○ 患者確保に向けた下半期の入院患者数については、北見・羽幌病院で前年度を上回ったが、江差病院は前年度を下回った。

② 個別事項

数値目標に対する実績見込					自己点検・評価	
(単位:百万円)						
区分	H27年間目標 A	H27年間実績 B	年間目標対比 B/A %	H26年間実績 C	対H26比 B/C %	
収 益 (a)	12,612	11,370	90.2%	10,472	108.6%	
医 業 収 益	9,340	8,317	89.1%	8,450	98.4%	
うち入院収益	6,401	5,490	85.8%	5,641	97.3%	
うち外来収益	2,802	2,683	95.8%	2,668	100.6%	
医 業 外 収 益	3,248	3,018	92.9%	2,000	150.9%	
うち療育入所収益	899	758	84.4%	727	104.3%	
1 日 平 均 入 院 患 者 数	585	488	81.9%	523	91.1%	
1 日 平 均 外 来 患 者 数	1,126	1,043	92.6%	1,064	98.1%	
費 用 (b)	18,314	17,051	93.1%	16,912	100.8%	
医 業 費 用	14,751	13,635	92.4%	13,981	97.5%	
うち医薬材料費	2,105	1,939	92.1%	1,877	103.3%	
医薬材料費比率(%)	22.9	23.7	—	22.6	—	
医 業 外 費 用	2,351	2,173	92.4%	2,318	93.8%	
うち療育費用	1,746	1,686	96.6%	1,704	98.9%	
収 支 差 (c=a-b)	▲ 5,702	▲ 5,681	99.6%	▲ 6,440	88.2%	
一 般 会 計 負 担 金	5,583	5,968	106.9%	6,217	96.0%	

【患者数】

- ・ 新規患者の掘り起こしや関係機関や住民向けのPRなどの取組を実施した。外来はほぼ前年度並みであったが、入院は目標比81.9%、前年度比91.1%に減少した。

【収 益】

- ・ 医業収益は、入院・外来ともに患者数が減少する中で、概ね前年度並みの収益を確保した。医業外収益は、旧苫小牧病院の廃止関連収益により前年度より増となった。この結果、総収益は目標比90.2%、前年度比8.6%の増であった。

【費 用】

- ・ 患者数減により収益減が見込まれたため、費用の一層の縮減を図り、目標比93.1%の執行率となった。

【収支差】

- ・ 前年度と比較して収益は増加し、費用が同程度にとどまったことから、収支差は前年度実績、及び目標よりも縮減した。

■委員会点検・評価

- 患者数の減少傾向が続く中で、前年度並みの収益を確保し、費用の縮減に努めたことで、収支差が縮減されたことは評価。
- 診療報酬制度の加算措置の取得、病床利用率向上に向けた新たな病床機能の整備など、収益確保に向けた取組を強化すること。

(2) 江差病院

①上半期委員会評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成27年度の取組実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の急性期医療機関から地元患者を受け入れる医療機関として、地域包括ケア病床整備に向けた地域のニーズ把握や課題の整理、必要な施設基準の取得について検討を進めること。 ○ 地域医療構想を踏まえ、急速に人口減少が進んでいる南檜山地域における将来の病床機能や地域との役割分担などについて、周辺自治体との意見交換を進めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域包括ケア病床の整備に向けデータ提出加算届出等の準備に着手した。 ○ 本庁職員が周辺自治体へ赴き、江差病院及び他の医療機関・福祉施設等の現状、地域医療構想を踏まえた江差病院の将来の病床機能や地域との役割分担などについて意見交換を実施。

②個別事項

数値目標に対する実績見込						自己点検・評価
区 分	H27年間目標	H27年間実績	年間目標対比	H26年間実績	対H26比	【患者数】
	A	B	B/A %	C	B/C %	
収 益 (a)	2,473	2,013	81.4%	2,224	90.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入院は、年末年始の感染症による患者や冬期間の転倒骨折等整形外科的患者の増加はあったものの、上半期の手術患者数減少の影響が大きく、目標比74.8%、前年度比88.5%と減少した。 ・ 外来は、内科医の減などが影響し、目標比88.6%、前年度比94.4%と減少した。
医 業 収 益	2,187	1,725	78.9%	1,934	89.2%	
うち入院収益	1,276	917	71.9%	1,071	85.7%	【収 益】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者数が減少する中で、内視鏡検査件数の増加など収益確保に取り組んだ。入院収益は目標比71.9%、前年度比85.7%、外来収益は目標比88.5%、前年度比93.4%にとどまった。
うち外来収益	858	760	88.5%	813	93.4%	
医 業 外 収 益	277	262	94.7%	282	92.9%	【費 用】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者数の減少に伴い、医薬材料費等が大きく減少したことなどにより、目標比89.5%の執行率となった。
1 日 平 均 入 院 患 者 数	123.0	92.0	74.8%	103.9	88.5%	
1 日 平 均 外 来 患 者 数	360.0	319.0	88.6%	338.0	94.4%	【収支差】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 収支差は前年度実績、目標と比較して拡大した。
病 床 利 用 率 (%)	80.9	60.5	74.8%	60.5	100.0%	
費 用 (b)	3,290	2,943	89.5%	3,139	93.8%	【費 用】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者数の減少に伴い、医薬材料費等が大きく減少したことなどにより、目標比89.5%の執行率となった。
医 業 費 用	3,115	2,757	88.5%	2,877	95.8%	
うち医薬材料費	496	385	77.6%	440	87.5%	【収支差】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 収支差は前年度実績、目標と比較して拡大した。
医薬材料費比率(%)	23.2	22.9	-	23.3	-	
医 業 外 費 用	165	167	101.2%	177	94.4%	【収支差】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 収支差は前年度実績、目標と比較して拡大した。
収 支 差 (c=a-b)	▲ 817	▲ 930	-	▲ 915	-	
一 般 会 計 負 担 金	878	1,013	115.4%	876	115.6%	

■委員会点検・評価

- ここ数年、整形外科や外科等地域で必要とされる診療科の医師不足も影響し、患者数の減少が続いている。圏域に唯一のセンター病院として、その機能を十分に発揮できるよう、必要な診療科に、必要な医師数を確保すること。
- 地域包括ケア病床は回復期患者の受け皿として、病床利用率の向上が期待できることから、早期に整備を進めること。
- 南檜山圏域の中心的機能を担う医療機関であることから、将来の医療需要を見据えて、今後の適正病床数や必要とされる病床機能の転換について、地域の関係者と十分に意見交換を行うこと。

(3) 北見病院

① 上半期委員会評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成27年度の取組実績
○ 上半期の状況を維持しながら、来年の移転後、新病院の機能をフルに発揮するためにも、最優先で看護師確保に取り組むこと。	○ インターンシップやオープンセミナーの実施、募集広告掲載回数の増加などにより、看護師12名の確保に努めた。

② 個別事項

数値目標に対する実績見込						自己点検・評価
(単位:百万円)						【患者数】
区 分	H27年間目標 A	H27年間実績 B	年間目標対比 B/A %	H26年間実績 C	対H26比 B/C %	
収 益 (a)	1,524	1,445	94.8%	1,354	106.7%	<ul style="list-style-type: none"> 入院は、心臓血管外科・循環器内科において、前年度を上回る患者数を確保したことなどから、前年度の5.0%増、目標比では85.7%となった。 外来は、地域医療機関との連携や紹介状のない患者受入体制により確保に努め、前年度の6.7%増で目標患者数を確保した。
医 業 収 益	1,314	1,270	96.6%	1,177	107.9%	
うち入院収益	1,057	1,016	96.1%	932	109.0%	
うち外来収益	250	246	98.3%	237	103.7%	
医 業 外 収 益	208	174	83.5%	176	99.0%	
1 日平均入院患者数	36.0	30.9	85.7%	29.4	105.0%	
1 日平均外来患者数	63.0	64.1	101.8%	60.1	106.7%	
病床利用率(%)	(94.7)	(81.3)	85.8%	(77.4)	105.1%	
費 用 (b)	2,024	1,936	95.6%	1,842	105.1%	
医 業 費 用	1,994	1,906	95.6%	1,762	108.2%	
うち医薬材料費	529	501	94.6%	461	108.5%	
医薬材料費比率(%)	40.5	39.7	-	39.5	-	
医 業 外 費 用	26	27	104.0%	28	93.6%	
収 支 差 (c=a-b)	▲ 500	▲ 491	-	▲ 488	-	
一 般 会 計 負 担 金	469	535	114.1%	447	119.7%	

■委員会点検・評価

- 患者数が増加し、収益単価も増加、医業収益が前年度実績を大きく上回ったことは評価。
- 新病院移転後は、隣接する北見赤十字病院との連携のもと、高度専門医療機能の更なる充実が図られることから、一層の収益増に取り組むこと。

(4) 羽幌病院

①上半期委員会評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成27年度の実績
○ 他の急性期医療機関から地元患者を受け入れる医療機関として、地域包括ケア病床整備に向けた地域のニーズ把握や課題の整理、必要な施設基準の取得について検討を進めること。	○ 地域包括ケア病床の整備については、平成28年度運用開始に向けて、病棟専従の理学療法士を1名配置するなど、必要な準備を進めた。

② 個別事項

数値目標に対する実績見込						自己点検・評価
(単位:百万円)						【患者数】 ・ 入院は、介護者支援短期（レスパイト）入院や糖尿病の教育入院などを実施し、患者確保に努めたが、目標比 70.9%、前年度比 96.6%に減少した。 ・ 外来は、内科の午後診療日の拡大や人間ドックを開始したが、整形外科の常勤医が不在となったことや非常勤医による診療日数が減少した影響が大きく、目標比 84.3%、前年度比 94.4%と減少した。 【収益】 ・ 患者数減により、入院収益は目標比 68.0%、前年度比 92.9%、外来収益は目標比 87.2%、前年度比 99.3%となった。 【費用】 ・ 患者数減に伴い医薬材料費が減少したほか、経費についても節減に努め、目標比 87.5%の執行率となった。 【収支差】 ・ 収支差は前年度実績、目標よりも縮減した。
区 分	H27年間目標 A	H27年間実績 B	年間目標対比 B/A %	H26年間実績 C	対H26比 B/C %	
収 益 (a)	1,243	1,032	83.1%	1,059	97.5%	
医 業 収 益	1,061	848	80.0%	874	97.0%	
うち入院収益	416	283	68.0%	305	92.9%	
うち外来収益	620	541	87.2%	544	99.3%	
医 業 外 収 益	174	183	105.3%	180	101.7%	
1 日 平 均 入 院 患 者 数	39.0	27.6	70.9%	28.6	96.6%	
1 日 平 均 外 来 患 者 数	237.0	199.7	84.3%	211.5	94.4%	
病 床 利 用 率 (%)	(86.7)	(61.3)	70.8%	(63.4)	96.7%	
費 用 (b)	1,965	1,720	87.5%	1,767	97.3%	
医 業 費 用	1,845	1,603	86.9%	1,604	100.0%	
うち医薬材料費	269	218	81.0%	227	96.0%	
医薬材料費比率(%)	26.0	26.5	-	26.8	-	
医 業 外 費 用	114	114	99.8%	117	96.6%	
収 支 差 (c=a-b)	▲ 722	▲ 688	-	▲ 708	-	
一 般 会 計 負 担 金	706	749	106.1%	680	110.2%	

■委員会点検・評価

- ここ数年、患者数が減少し、病床利用率が低迷している。新たに整備した地域包括ケア病床について、周辺医療機関・福祉施設等に広く周知するなど、病床利用率の向上を図ること。
- 圏域に2つあるセンター病院の役割・機能分担を明確にし、地域医療構想とも整合を図りながら、適正病床数や道立病院として提供すべき医療のあり方を十分に検討し、地域の関係者とも意見交換を行うこと。その上で、4階病棟の有効活用策の検討を進めること。

(5) 緑ヶ丘病院

① 上半期委員会評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成27年度の実績
○ 引き続き、スーパー救急病棟の高い利用率を維持するとともに、他の病棟の利用率向上を図り、更なる収益確保に努めること。	○ 他の病棟の利用率は目標には達しなかったものの、スーパー救急病棟の利用率は目標以上の高水準を維持し、収益確保に努めた。

② 個別事項

数値目標に対する実績見込						自己点検・評価
(単位:百万円)						
区 分	H27年間目標 A	H27年間実績 B	年間目標対比 B/A %	H26年間実績 C	対H26比 B/C %	
収 益 (a)	1,173	1,253	106.8%	1,164	107.6%	【患者数】 ・ 入院は、長期入院患者の退院促進で平均在院日数が減少し、目標比88.1%、前年度比85.3%と減少。 ・ 外来は、退院後通院患者の増により、前年度の3.8%増で概ね目標どおりとなった。 【収益】 ・ 精神科スーパー救急病棟が年度を通して稼働し、収益単価が増加したため、入院収益は前年度の8.6%増、外来収益は、外来パスの徹底により収益単価の増に努め、前年度の7.2%増とともに目標を上回った。 【費用】 ・ 後発医薬品の採用率向上に努め、医薬材料費比率の低減、経費の節約により、目標比93.5%の執行率となった。 【収支差】 ・ 収支差は前年度実績、目標よりも大きく縮減した。
医 業 収 益	1,066	1,150	107.8%	1,063	108.2%	
うち入院収益	738	810	109.7%	746	108.6%	
うち外来収益	313	318	101.4%	297	107.2%	
医 業 外 収 益	106	100	94.9%	97	102.7%	
1日平均入院患者数	118.0	104.0	88.1%	121.9	85.3%	
1日平均外来患者数	170.0	170.0	100.0%	163.8	103.8%	
病床利用率(%)	(86.1)	(75.9)	88.1%	(79.0)	96.1%	
費 用 (b)	2,000	1,869	93.5%	2,018	92.6%	
医 業 費 用	1,950	1,825	93.6%	1,883	96.9%	
うち医薬材料費	85	74	87.0%	83	88.8%	
医薬材料費比率(%)	8.1	6.5	-	8.0	-	
医 業 外 費 用	46	41	88.0%	40	102.3%	
収 支 差 (c=a-b)	▲827	▲616	-	▲854	-	
一 般 会 計 負 担 金	767	672	87.6%	780	86.2%	

■委員会点検・評価

- スーパー救急病棟が稼働したことにより、患者数が減少する中で、収益単価の増により医業収益が大きく増加したことは評価。引き続き、病床利用率の向上に努めること。
- 緑ヶ丘病院の専門性を発揮するため、児童思春期医療に関する患者需要を把握しながら、機能の充実等についても検討すること。

(6) 向陽ヶ丘病院

①上半期委員会評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成27年度の取組実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症疾患医療センターの利用拡大に向けて取組を進めること。 ○ 平成28年度の新病院供用開始が控えているが、現状の患者数を大きく下回ることのないよう患者数の維持に努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広報用ポスターを大規模店舗等に配付し、地域自治体開催のイベントにおいて、認知症医療相談を実施したほか、老人クラブ等において講演会を実施し、認知症に関する理解を促進することにより認知症疾患医療センターのPRに努めた。 ○ 新病院移行に向け長期入院患者の退院促進を図る一方、夜間・休日の急性期患者の受入に努めるも、患者数の維持は目標どおりとはならなかった。

②個別事項

数値目標に対する実績見込					自己点検・評価	
区 分	H27年間目標	H27年間実績	年間目標対比	H26年間実績	(単位:百万円)	
	A	B	B/A %	C	対H26比	
収 益 (a)	875	808	92.3%	857	94.2%	
医 業 収 益	845	776	91.8%	799	97.0%	
うち入院収益	582	526	90.4%	546	96.4%	
うち外来収益	253	238	93.9%	244	97.4%	
医 業 外 収 益	29	29	102.7%	55	53.3%	
1日平均入院患者数	109.0	93.7	85.9%	101.5	92.3%	
1日平均外来患者数	139.0	129.2	92.9%	133.1	97.1%	
病床利用率(%)	74.7	64.1	85.8%	69.5	92.2%	
費 用 (b)	1,435	1,307	91.1%	1,543	84.7%	
医 業 費 用	1,399	1,276	91.2%	1,457	87.6%	
うち医薬材料費	87	95	109.8%	84	113.4%	
医薬材料費比率(%)	10.4	12.5	-	10.6	-	
医 業 外 費 用	35	28	80.9%	29	96.2%	
収 支 差 (c=a-b)	▲ 560	▲ 499	-	▲ 686	-	
一 般 会 計 負 担 金	532	543	102.1%	645	84.2%	

【患者数】

- ・ 入院は、新病院移転に向け長期入院患者の退院促進を進める中で、特に夏期間に退院患者が入院患者を大きく上回ったことから患者数は目標比85.9%、前年度比92.3%であった。
- ・ 外来は、デイ・ケア対象者が減少する中で、目標比92.9%、前年度比97.1%と前年同程度の患者数を確保した。

【収 益】

- ・ 患者数の減により、入院収益は目標比90.4%、前年度比96.4%、外来収益は、目標比93.9%、前年度比97.4%となった。

【費 用】

- ・ 医薬材料費は、注射料が増加したため前年度比増となったが、退職者数の減により職員費が前年度よりも大きく減少し、目標比91.1%の執行率となった。

【収支差】

- ・ 収支差は前年度実績、目標よりも縮減した。

■委員会点検・評価

- 病院の移転に向けて、患者数調整が必要であったため、患者数及び収益が減少したが、費用も縮減し、収支差が大きく改善したことは評価。
- 新病院では、認知症疾患医療センターなどの病院機能をより一層PRし、広域で利用者の拡大に努めること。

(7) 子ども総合医療・療育センター

①上半期委員会評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成27年度の取組実績
○ 前年度と比較して実績は上回っているが、診療科別に収益状況及び増減の要因を分析し、個別に対策を講じること。	○ 診療科別の収益状況及び増減の要因を分析し、各々の状況に応じた対策を検討。

② 個別事項

数値目標に対する実績見込						自己点検・評価
(単位:百万円)						
区 分	H27年間目標 A	H27年間実績 B	年間目標対比 B/A %	H26年間実績 C	対H26比 B/C %	
収 益 (a)	4,154	3,695	88.9%	3,743	98.7%	【患者数】 ・ 入院は、医療部門における平均在院日数が短縮し、一日平均患者数は前年度実績を下回ったが、療育部門では、前年度実績を上回ったことから、全体では前年度の1.3%増となり、目標比では87.5%となった。 ・ 外来は、医療機関への周知などによる紹介患者の増加や、在宅移行に伴う患者の増により、前年度の2.4%増となり、目標数を確保した。 【収益】 ・ 入院収益は、医療部門で一日平均患者数が減少し、目標比83.1%、前年度比94.9%にとどまった。一方、外来収益は、患者数増により、前年度の9.1%増で、目標比114.7%と大きく上回った ・ 医療外収益に区分している療育部門の入所収益については、入所者数の増加に伴い、前年度の4.3%増で、目標比では84.4%となった。 【費用】 ・ 経費の節減に努めたが、高額医薬品の利用増により、医療費用は前年度実績を上回った。療育部門の費用である医療外費用が縮減したため、費用全体としては前年度よりも縮減し、目標比95.6%の執行率であった。 【収支差】 ・ 収益全体としては、ほぼ前年度並みの額を確保し、費用が縮減できたことから、前年度より収支差が縮減したものの、目標までには至らなかった。
医 業 収 益	2,867	2,549	88.9%	2,603	97.9%	
うち入院収益	2,332	1,937	83.1%	2,041	94.9%	
うち外来収益	507	581	114.7%	533	109.1%	
医 業 外 収 益	1,287	1,144	88.9%	1,139	100.4%	
うち療育入所収益	899	758	84.4%	727	104.3%	
1 日平均入院患者数	160.0	140.0	87.5%	138.1	101.3%	
うち医療部門	85.0	69.4	81.6%	72.9	95.2%	
うち療育部門	75.0	70.6	94.1%	65.2	108.3%	
1 日平均外来患者数	157.0	161.1	102.6%	157.3	102.4%	
病 床 利 用 率 (%)	76.6	67.0	87.5%	65.5	102.3%	
うち医療部門	85.9	70.1	81.6%	69.5	100.9%	
うち療育部門	68.2	64.2	94.1%	59.3	108.3%	
費 用 (b)	6,114	5,846	95.6%	5,980	97.8%	
医 業 費 用	4,149	4,009	96.6%	3,841	104.4%	
うち医薬材料費	639	667	104.3%	582	114.6%	
医薬材料費比率(%)	22.5	26.5	-	22.6	-	
医 業 外 費 用	1,949	1,796	92.1%	1,909	94.1%	
う ち 療 育 費 用	1,746	1,686	96.6%	1,704	98.9%	
収 支 差 (c=a-b)	▲ 1,960	▲ 2,151	-	▲ 2,237	-	
一 般 会 計 負 担 金	1,960	2,151	109.7%	2,237	96.2%	

■委員会点検・評価

- 産科医確保により、ハイリスクの胎児への集学的な治療を行うため、出生前から母子を受け入れる体制が整ったことから、関係医療機関からの積極的な患者受入に努めること。
- 患児の重度化・重複化に伴い、NICUの利用率は高いことから、その水準を維持するとともに、今後の需要予測、費用対効果などを十分に考慮しながら、規模の充実も検討すること。